

# オプション教材プラタナス 暗唱長文集



## ●暗唱の手順 1 日分

・ 1 日目は、まず、**1**の文章を30回音読します。最初の数回はゆっくり正確に「てにをは」などを間違えないように読みます。

正確に読めるようになったら、ある程度早口で棒読みで、句読点などであまり息継ぎをせずに読んでいきます。

イスにきちんと座って読むと読みにくい場合は、歩き回りながら読んでもかまいません。

お母さんやお父さんは、読み方の注意などは一切せずにただ優しく褒めるだけにしてください。

15回ぐらいでもう空で言えるようになることが多いと思いますが、できるだけ30回続けて読んでください。

なぜ回数を決めて繰り返すかという、と、「覚えられたらよい」という目標でやっていると、暗唱の教材が難しくなったときに、「難しいからできなくなった」ということになりがちだからです。「決まった回数を繰り返す」という目標でやっていると、難しい教材になっても同じように暗唱ができます。

30回音読しても暗唱できない場合は、もう10回音読してください。

これでその**1**の文章が暗唱できるようになります。

それでもできない場合は、暗唱の自習はいったん終了してかまいません。また機会を見てやっていきましょう。

## ●暗唱が難しいときは

暗唱のような短い時間の学習は、夕方にやろうとすると忘れてしまうことがあります。また、毎日同じようにやらないとできるようになりません。できるだけ、朝ご飯の前などに、家族のいる中でやるようにしましょう。

そして、暗唱を毎日やるのが難しい場合は、暗唱の自習はせずに、読書の方に力を入れていってください。

## ●暗唱の手順 1 週間分

- ・ 1 日目に、**1**の文章を暗唱できるようにします。
- ・ 2 日目は、**2**の文章だけを同じように30回音読し、暗唱できるようにしておきます。
- ・ 3 日目は、**3**の文章だけを同じように30回音読し、暗唱できるようにしておきます。
- ・ 4 日めは、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。すぐに暗唱できなくてもかまいません。
- ・ 5 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。
- ・ 6 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。
- ・ 7 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。すると、**1**から**3**の全部の文章が暗唱できるようになります。

## ●暗唱の手順 1 か月分

- ・ 1 週目に、**1**から**3**の文章を暗唱できるようにします。
- ・ 2 週目は、もう**1**から**3**はやらずに、今度は**4**から**6**の文章を暗唱します。
- ・ 3 週目は、同じように、**7**から**9**の文章を暗唱します。
- ・ 4 週目は、**1**から**9**の文章を全部通して、毎日4回ずつ音読します。
- ・ すると、1 か月で**1**から**9**の文章が暗唱できるようになります。

## ●暗唱の活用

・ 暗唱のコツをつかむと、自分の好きな本の1部を暗唱したり、英語の教科書を暗唱したりできるようになります。また、覚えるつもりがなくても、物事が頭に入りやすくなります。

## ●より詳しい説明は

より詳しい暗唱の仕方は、「暗唱の手引」(<http://www.mori7.net/mori/mori/annsvou.html>)をごらんください。

1「努力すれば報われる」と、私たちは教わって育ってきた。しかし、子供の学力と親の収入が相関しているなどという調査を見ると、努力する以前にスタートの地点が違っているというケースも、世の中にはかなりあるのではないかと思えてくる。2もし、そういう歪みが社会にあるとすれば、それは世代を経ることに再生産され、やがて生まれつき銀のスプーンをくわえた恵まれた少数のグループと、単に指をくわえただけの多数のグループとに、社会ははっきりと色分けされるようになるだろう。3私たちは、機会における均等を保証する社会を作らなければならない。

そのための方法は、第一に、競争の条件をそのつど新たに決め直す仕組みを作ることだ。4自由競争という言葉は響きがいいが、自由な競争はやがて、力の強いものがますます強く、力の弱いものがますます弱くなるような偏りを生み出す。そのため、自由競争は往々にして独占のもとでの不自由な競争となることがある。5政治家の世襲が日本では問題になっているが、これは、後援会という地盤を引き継ぐ自由を認めることが、他の候補者の参入を阻む不自由な競争を生み出す結果につながることを示している。

6第二には、機会の均等を求めることが、結果の平等を要求するところにもつながらないように、私たちが節度を守ることである。

企業家精神に溢れた少数の人間と、そうでない多数の人間がいて、多数決で物事を決めようとすれば、社会は多数の利益を保障する方向へと流れがちだ。7努力や工夫をする人と、努力も工夫もしない人が、同じ給料しかもらえないのであれば、働く基準は自然に低い方に合うようになる。このことは、かつての社会主義国の経済運営や、現代でもお役所仕事という形で既に経験済みだ。

8確かに、安定した社会の条件として、個人の努力を要求する前に、最低限のセーフティーネットというものは必要だ。しかし、それはあくまでも老人や病人などという弱者に対しての安全網であって、社会の中心はあくまでも自由な競争の上に成り立つものでなければならぬ。9自由競争の中でもだれもがチャンスを生かせるようになるためには、個人の意志とともに、社会がチャンスを均等に用意していることが必要だ。「努力すれば報われる」社会もまた、私たちの努力によって作られるのである。0

(言葉の森長文作成委員会 M)

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

1 コンピュータ・プログラミングを勉強したいと思い、あるとき一冊の本を買った。最初は読めば読むほどわからなくなり、何度も同じところに傍線を引きながらパソコンに向かった。2 やがて、読む本が三冊、五冊と増えていくにつれて、次第にプログラミングの世界の全体図が見えるようになり、自分のしたいことをどう実現すればいいかということがわかるようになってきた。3 この経験から、私は、何事もある程度の蓄積をして初めて自分のものになるということを知った。しかし、現代の社会では、私たちは早い成果を求めるあまり、蓄積し準備するという気長な忍耐の時間を忘れたのではないか。4 では、この蓄積の時間を確保し自分なりの地図を作るためには、どうしたらよいのだろうか。

第一は、安易に他人の地図に頼らないことだ。世の中では、ほとんどの分野に先人がいる。5 先駆者は自分の経験をもとに、後進が無駄な回り道をしなくても済むように地図を用意してくれることがある。しかし、便利だからといって他人の作った地図を利用していただけは、自分で地図を作る力は育たない。6 数学の勉強でも、わからないところを先生に教えてもらうと、そのときはわかった気がするが、そのレベルでは日がたつとまたすぐに忘れてしまう。大事なことは、わかることなく、自分なりに苦労してわかることだ。つまり、自分なりの地図の上で理解することが大切なのだ。

7 第二には、浅く平板な自己流の地図で満足しないことである。スポーツの練習というものは単調なことが多い。サッカーなどの球技は技術の練習が中心に見えるかもしれないが、実は、走ることや正確なパスを出すことといった単純な基礎練習を徹底したチームの方が強いことが多い。8 何事も、ただできるようになっただけでは不十分で、無意識のうちに確実にできるようになるという身体化、血肉化が必要だ。そのためには、表面的な自己流に満足せず、その個性を徹底して深める反復練習が欠かせない。

9 確かに、現代の社会では、性急に目に見える成果を要求されることも多い。ドッグ・イヤーの速さで事態が進展する分野では、気長に蓄積をしていては時代の波に乗り損ねてしまうこともある。10 しかし、だからといってすぐに結果を出す生き方を人生の主軸に据えてしまえば、何年経験を積んでも浮き草のような人生になってしまうだろう。蓄積とは、単に知識や技能を蓄積することではなく、自分の人生を蓄積することなのでもある。

(言葉の森長文作成委員会 M)

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

**1**十倍もの今川軍の接近に直面した信長には、籠城か降伏かという二つの方法が選択肢でできた。しかし、信長の目指したものは、あくまでも勝利だった。勝利の一点を見つめたことが、桶狭間で奇襲という新しい活路を見出したのだ。**2**世界の歴史を切り開いてきたのは、用意された方法で問題をうまく解決した人ではなく、問題そのものに深く直面した人だった。では、私たちもまた、安易な方法への誘惑を拒否して、問題に直面して生きるためにはどうしたらよいのだろうか。

**3**第一は、マニュアルに頼る心を捨てることだ。昔の修行は、師の技を盗むものだった。今は、手っ取り早くマニュアルを学ぶことが、教える側にも教わる側にも求められる。その根底には、問題には必ず一定の答えがあるものだという前提がある。**4**だから、困ったことがあると、然るべき人にどうしたらよいかを聞くことになる。本当は、困ったことに対して、効率のよい解決を見つけようとする前に、その問題にしみじみと困ることが必要なのではないか。**5**その人にしかできないような深い悩み方こそ、その人にしかできない解決への第一歩だ。

第二は、解決に近づくことに価値があるのではなく、問題と格闘することに価値があるのだと発想の転換をすることである。もし解決だけが尊いのであれば、物まねでもカンニングでも解決すればよいことになる。**6**しかし、世の中には解決を拒む問題も多い。親鸞は、「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」と言った。イエスは、「罪のない者だけが石を投げよ」と言った。ここにあるのは、教科書的な解決方法ではなく、その問題を深く生きた人にしか語れない真実の言葉だ。**7**だからこそ、これらの言葉は時代を越えて私たちの心を動かす。どんな人間の心の中にも悪が存在するということは、方法によつては解決することのできない人間の本质だ。だからこそ、必要なのは解決ではなく、問題の共有なのだ。

**8**確かに、方法は、科学技術の発展に役立ち、生活の改善に役立つ。分数の割り算はひっくり返してかけるという方法を教わらなければ、多くの小学生が長い時間分数を割ることの意味について頭を悩まさなければならぬだろう。**9**だから、問題が真に把握できていないとしても、とりあえず解決の方法があるということは、日常生活にとつて役に立つ。しかし、その発想を人生そのものにあてはめようとすれば、それは人間の生活というよりもむしろ機械のメンテナンスに近いものになるだろう。**0**人間の生活は、方法からではなく目的からとらえたとき初めて生きたものになるのである。

（言葉の森長文作成委員会 M）

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34